

令和4年度 八戸市美術館新収蔵作品のお知らせ

コレクションラボ 003 七尾英鳳—花鳥風月を愛でる—

コレクションラボ 004 伊藤二子—^{いのち}生のかたち—



七尾英鳳《十和田湖日暮崎之図》1957



伊藤二子《無題》2001

八戸ゆかりの七尾英鳳・伊藤二子の2作家の作品資料を収蔵、 1月から展覧会で紹介

八戸市美術館では、収集活動を経て、令和4年度に2作家 25 件の作品や関連資料を収蔵しました。いずれも、八戸市と関連性の深い郷土ゆかりの作家の日本画、洋画の優品で、郷土の近代美術の歴史に記憶されるべき品々です。

収蔵作品を独自の切り口で紹介する展覧会シリーズ「コレクションラボ」では、これら新規に収蔵した作品を2回に渡って初公開し、それぞれの作家の画業を展観します。

コレクションラボ 003 七尾英鳳—花鳥風月を愛でる—

日程 | 2023年1月21日(土)～2月20日(月)

コレクションラボ 004 伊藤二子—^{いのち}生のかたち—

日程 | 2023年2月24日(金)～4月10日(月)

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
広報担当者 | 大澤、高橋 本展覧会担当学芸員 | 山田



新収蔵作品と展覧会の概要

1. 七尾英鳳 NANAŌ Eiho

四条派の画家対山の弟子だった祖父七尾清四郎(号対岳)の影響で、日本画家を志した七尾英鳳(1884~1962)は、生涯特定の師につくことなく、独学で画技を磨きました。ふるさとの風光をこよなく愛し、自らの目で捉えた風景を描くため、わらじ履きで握り飯を携え、十和田湖や八甲田山に良く出掛けていたといえます。一筆一筆端正込めて描かれた作品は、四季の移り変わりや、美しく雄大な自然の迫力を見事に表現しており、英鳳のふるさとへの愛着が見る者に伝わってきます。

コレクションラボ 003 では、人びとに親しまれ、乞われて襖絵や屏風絵など多くの作品を残した七尾英鳳の画業と、日本画の醍醐味「花鳥風月」の魅力を紹介します。



七尾英鳳《十和田湖日暮崎之図》1957



七尾英鳳《十和田湖中山崎春景図》1957

コレクションラボ 003 七尾英鳳—花鳥風月を愛でる—

日程 | 2023年1月21日(土)～2月20日(月) 10:00～19:00 火曜休館

会場 | コレクションラボ

展示作品 | 襖絵《十和田湖日暮崎之図》ほか日本画8点

※途中、作品の展示替え有り



2. 伊藤二子 ITO Tsugiko

造形家・伊藤二子(1926～2019)は、書家・造形家として活躍した宇山博明(1913～1997)を師と仰ぎ、師とともに「非具象」の表現世界を探求し続けました。母の胎内の色という黒を全面に塗り、その上から絵具を直接乗せたペインティングナイフでさまざまな色や形象を造形しました。伊藤はその時々を感じる生きることへの問い掛けや心の内を、大胆な線や形、色で伝えようとし、その形を自身の「いのちの形」と呼びました。作品にあえてタイトルはつけず、見る側の自由な感性を尊重しました。

コレクションラボ 004 では、新たに収蔵した作家・伊藤二子のさまざまな色や形で造形された生(いのち)の形をご覧ください。



左|伊藤二子《無題》2001 右|伊藤二子《無題》2003

コレクションラボ 004 伊藤二子^{いのち}—生のかたち—

日程| 2023年2月24日(金)～4月10日(月) 10:00～19:00 火曜休館

会場|コレクションラボ、ブラックキューブ

展示作品|伊藤二子油彩画作品16点、ペインティングナイフ、関連書籍など

鑑賞プログラム「ほろ酔い鑑賞 ほろ8」好評につき継続予定!

2022年9月から開催している「コレクションラボ002 地をみつめる」において毎月開催している鑑賞プログラム「ほろ酔い鑑賞 ほろ8」を、好評につき、継続して実施予定です。閉館後の美術館内で実施する本プログラムでは、地酒を楽しんだ後にコレクションラボの展示作品を鑑賞し、担当学芸員と作品について感じたことや作品の気になったポイントなどを語り合います。

詳細決定次第、八戸市美術館ホームページで告知いたします。



八戸市美術館 美術品等収集方針

八戸市美術館では、「地域の芸術や文化、まちの歩みに寄り添いながら、未来を見据え、多様な価値観を創出し、人を育むための美術資料の収集を行う」という収集理念を設定し、次の収集方針項目を1つ以上満たす作品及び関連資料の収集を目指しています。収集にあたっては、専門家で構成する「八戸市美術館美術品等収集委員会」での調査・審議を経て行っています。

美術品等収集方針

- 【方針1】 八戸市を中心とした近隣地域ゆかりのもの
- 【方針2】 八戸地域における新たな魅力の創造や学びにつながるもの
- 【方針3】 八戸の美術を美術史全体の中で位置づけられるもの



広報用画像



a



b



c



d

- a 七尾英鳳《十和田湖日暮崎之図》1957
- b 七尾英鳳《十和田湖中山崎春景図》1957
- c 伊藤二子《無題》2001
- d 伊藤二子《無題》2003

広報用画像をご希望の方は、【1. 会社名 / 組織名、2. 媒体名・媒体の種類(雑誌、テレビ、webなど)、3. ご担当者名、4. ご連絡先、5. 掲載／放送予定日、6. 画像到着希望日、7. ご希望の写真が掲載されているプレスリリースの発行日、8. ご希望の写真記号】をメール、または FAX に明示の上、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。

[画像の貸出条件]

- 画像は本企画・美術館の紹介の目的のみにお使いいただけます。
- 画像データは第三者へ譲渡せず、使用后すみやかに消去してください。
- 画像のトリミングについては事前にご相談ください。
- 作品画像の上に図や文字を重ねることはできません。
- 画像を掲載、放送する際には、指定のクレジット表記を必ずいれてください。
- 画像を掲載、放送する前に、ゲラ等掲載案をお送りください。担当者が確認します。
- 新聞紙、雑誌、書籍等の印刷物に画像を使用する際は、八戸市美術館に1部ご寄贈ください。

お問い合わせ先

八戸市美術館 031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL | 0178-45-8338(代表番号) FAX | 0178-24-4531
E-mail | art@city.hachinohe.aomori.jp 八戸市美術館公式 HP | <https://hachinohe-art-museum.jp>
担当者(広報)|大澤、高橋 本展覧会担当学芸員|山田